

市史だより

がちまやあ

Gači-majaa

第26号・2012年7月31日(火)発行

年2回 (7・12月発行)

編集・宜野湾市教育委員会 文化課 市史編集係

〒901-2224

沖縄県宜野湾市真志喜1-25-1(宜野湾市立博物館内)

問い合わせ・情報提供先



☎ (098)870-9317

Fax (098)870-9316

E-Mail: Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

※宜野湾市役所のホームページで、バックナンバーも公開中!!!

HP: <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>

安仁屋って?



あにや 1671 (康熙10) 年の宜野湾間切 [現在の市町村にあたる昔の行政単位] 創設の際に、北谷間切から編入された集落です。方言ではアンナと発音され、宜野湾村の北部、北谷村と接する低地にありました。

集落移動の伝説があり、“その昔、安仁屋と新城の集落は近かったが、その間にあった岩が「アンナグー クンケーラシ、アラグスクグー クンタバリ (安仁屋をひっくり返せ、新城をしばりつけろ)」と叫んだため、安仁屋は下 (北側) に下がり、新城は現在の普天間飛行場のあたりに移動した”と伝わります。

農業が主で、稲作やサトウキビ栽培を行っていました。宜野湾村内で最も戸数が少ない集落でしたが、サターヤー (製糖小屋) は3カ所ありました。しかし、昭和10年代から海外移民が増え、労働力不足となったので、サトウキビをケービン (沖縄軽便鉄道) で嘉手納製糖工場へ運ぶことが多くなりました。



また、安仁屋は近隣に鳴り響いた遊び国 [歌、三線、踊りなどが盛んな村] で、三線弾きにはことかかなかったそうです。エイサーも盛んで、15~20歳ぐらいの青年男女たちが、お送り後の午後8時頃から翌日までかけて、各家庭を巡りました。



沖縄戦後は、集落すべてを米軍基地として接收され、野嵩や普天間などに分散して居住せざるを得ませんでした。それでも安仁屋として区行政を行ってききましたが、

1964 (昭和39) 年の行政区再編によって、行政区としても安仁屋は消えてしまいました。2012 (平成24) 年現在も、いまだに安仁屋の土地すべてがキャンプ瑞慶覧内となっており、故郷に帰れない日々が続いています。しかし、安仁屋の人々は郷友会を結成し、祭祀行事を行ったり、親睦交流を深めており、その絆は、今でも固く結ばれています。



安仁屋郷友会のみなさん





「ぎのわんムラ紀行」の第4回目は、安仁屋です。安仁屋はかつて北谷間切に属した北端の村で、戦前の宜野湾村内では最も小さな村落でした。低地に位置した安仁屋は、河川に囲まれ、湧水が多く湧き出す水の豊富な地域で、集落内には水道が引かれ、屋敷井戸が1ヵ所しかない、水に恵まれた地域でした。周辺には広大な水田が広がり、綱引きや盆のエイサーなどの年中行事が行われていました。

① イシジャー(石川)
 新城から集落の前に流れてきた川です。普段は水がなく、石がごろごろしていましたが、雨が降ると急に水が流れました。流域には安仁屋の人の墓が多くありました。



② トウンヤマ(殿山)
 安仁屋の拝所があった山です。ウスクガジマル(アコウ)が石の祠を抱きかかえるようにして生えていました。戦後、安仁屋の拝所を集め、合祀しています。



③ フルヤシチバル(古屋敷原)
 大昔、安仁屋の集落があったと伝わる場所です。周囲より小高くなっていました。

↓戦後、トウンヤマに合祀された拝所



←トウンヤマの拝所

阿良波公園

北谷町

普天間川

北前ゲート

安仁屋古集落遺跡

トゥンヤマ遺跡

キャンプ瑞慶覧

普天間第二小学校

そのような安仁屋も、沖縄戦のあと、すべての土地をキャンプ瑞慶覧に接収されてしまいました。
今回の「ぎのわんムラ紀行」では、安仁屋の自然や祈りの場、遺跡・史跡などのいくつかを紹介します。

④ スイドー(水道)

安仁屋にあった水道です。集落前方にあったメーヌカー(前の泉)が水源で、そこから湧き出た水をミジグラ(水タンク)に溜め、集落内に引き込んでいました。集落内の3ヵ所に蛇口があり、そこから水を利用していました。

⑤ マルグムヤー(丸い淵)

アンナガーラ(現在の普天間川の下流)にあった川の深み(淵)で、子どもたちが水遊びをしたり、家畜に水浴びをさせる場所でした。

安仁屋には、本集落の他にいくつかの屋取集落がありました。

⑥ メーヤードゥイ(前方の屋取)

安仁屋の前方にあった屋取集落です。安仁屋・喜友名・伊佐・北谷村北前にまたがるイサバーマ(伊佐浜)と呼ばれる屋取集落の中で、安仁屋に属する地域です。名嘉真や田里一族が住んでいました。

⑦ ヤードゥイグラー(屋取小)

安仁屋集落の東側にあった屋取集落です。花城や當真の一族が中心でした。普天間地番の家も数件含まれ、安仁屋の行政区に入っていました。

現在の行政区界



	河川
	河川(旧流路)
	主な遺跡の名称
	遺跡の概略の範囲
	集落の範囲

安仁屋区の「戦後」

■ 「基地に消えたムラ」

宜野湾市史の刊行物における、安仁屋区の「戦後」についての典型的な記述は、おおよそ「基地に消えたムラ」といったものですが、このコラムでは1940年代後半～50年代前半を中心に、行政区として存続していた頃の安仁屋区について述べてみたいと思います。

■ 「暫定処置」

宜野湾市文化課が所蔵する戦後初期統計資料を読む限り、戦後の安仁屋区民の居住区域は一貫して「野嵩」と記録されています。もちろんそれはキャンプ瑞慶覧のために旧居住地への移動が許可されなかったからに他なりません、それにもかかわらず、1948（昭和23）年10月、宜野湾村議会で行政区設置条例が可決された際、安仁屋区の行政区域は「字安仁屋地域」と設定されました。

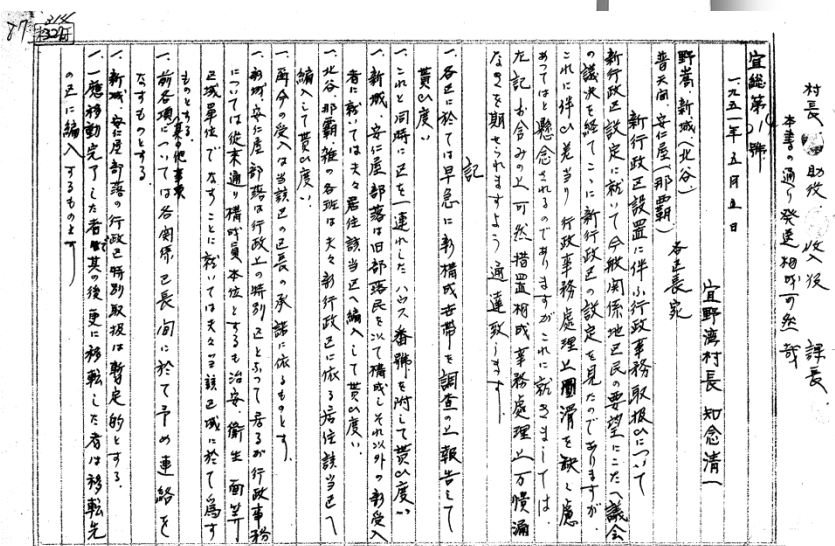
このような行政区域が設定されたことについて断定は出来ませんが、想定可能な要因の一つとして、「暫定処置として喜友名、安仁屋、普天間の三部落は移動出来るまで各区分にそれぞれ定めたるにより改築新築の住家は各々所定の区域内になす」（1947年8月11日付「区長会記録簿」）との取り決めに見るように、安仁屋区を含む移動が許可されない区が継続して「野嵩」の所定の区域内に留まることは、当時としてはあくまでも暫定的であったことが挙げられそうです。

■ 「特別区」へ

しかし1950年代に入っても安仁屋への居住は許可されませんでした。安仁屋区事務所があった野嵩、並びに普天間にはすでに多くの人々が流入しており「現在の行政区は区域が主体で無く、人が主体になっている」「区民が入交を成し、完全なる行政執行が不可能」等の問題が生じていました（1951年4月14日付「行政区画設置に関する御意見拝聴について」）。

こうした事態に対処すべく、51年5月、

宜野湾村は普天間二区を新設しました。右に掲載した「新行政区設置に伴ふ行政事務取扱ひについて」によると、同区域に雑居する北谷村民や那覇市民をはじめとする他市町村村民は普天間二区への登録が義務付けられ、同時に新城区、安仁屋区は「旧部落民」のみで構成される、暫定的な「特別区」として位置付けられたことが見て取れます。従来の行政事務と異なる点として、治安や衛生等の区域で行うべきものについては普天間二区を含む、それぞれが実際に居住する当該区域に移管されこともまたうかがえます。



1951年5月5日付「新行政区設置に伴ふ行政事務取扱ひについて」

このように「特別区」として歩み始めた安仁屋区でしたが、安仁屋の開放は一向に実現しませんでした。1960（昭和35）年に一部が開放された新城とは明暗を分けるように、1964（昭和39）年1月、新行政区の施行とともに行政区としての安仁屋は姿を消していったのでした。

宜野湾市史事業報告

慰霊の日企画展

「沖縄戦と宜野湾」をテーマに6月13日(水)～7月1日(日)の期間に写真パネル展を開催しました。沖縄戦における宜野湾での戦争の様子などを120点余りの写真で紹介しました。(入場者953名)



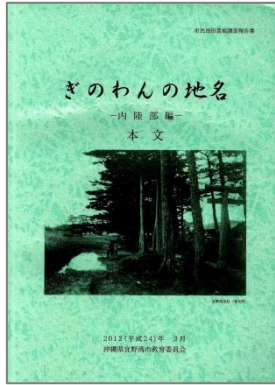
☆たくさんの
ご来場ありがとう
ございました☆

嘉数中学校1年生 総合学習

6月27日(水)・7月5日(木)に嘉数中学校1年生の総合学習として、地域の歴史・地理について学ぶ授業が市立博物館、嘉数高台公園で行われました。慰霊の日企画展の解説、嘉数高台公園にて沖縄戦の概略説明、普天間飛行場の変遷などの説明をしました。暑い中、7クラス243名の生徒さんが説明を聞いてくれました。



『ぎのわんの地名－内陸部編－』 いよいよ販売 !!!



本文



付録地図

宜野湾の内陸部 17 カ字における、戦前の集落・暮らしの様子など人々の生活に根差した地名を記録した本文（408 ページ）と付録地図（61 種類・35 枚）から構成されています。付録地図はオールカラーで戦前と現在の地図を見比べることもでき、見ごたえ十分です。

定価 3,000 円(税込)

※教育委員会文化課（市民会館 2F）
市立博物館で販売しています。

『ぎのわんの地名展』 開催

『ぎのわんの地名－内陸部編－』の発刊に合わせ、2006 年から 2011 年にかけて行った地名調査の成果を展示で紹介します。

期間：平成 24 年 9 月 12 日（水）～9 月 30 日（日）

9：00 ～ 17：00（入館は 16：30 まで）

場所：宜野湾市立博物館 企画展示室 **入場無料**

休館日：毎週火曜日・祝祭日

【市民講座】地形と地名（野外観察会）

講師：崎浜 靖（沖縄国際大学 准教授）

日時：9 月 23 日（日）9：00～12：00

「サングワチャー（三月遊び）」の調査について

市史編集係では、市内民俗芸能調査事業として宜野湾で古くから行われている旧暦 3 月 3 日の行事、サングワチャー（三月遊び）の調査を行います。

調査でおじゃまする際にはご協力お願いいたします。



市制 50 周年記念写真集に掲載する写真を募集しています。

宜野湾市が誕生した 1962（昭和 37）年
前後から現在までの宜野湾市の市民生活
や出来事、自然の景観、街並みなどの写真
を募集しています。そのような写真をお持ち
の方は、ぜひ、市史編集係までご一報く
ださい。 TEL 870-9317



市昇格祝賀式典会場（普天間総合グラウンド）
『写真集「ぎのわん」』より



市史編集係事務所は、今年の 5 月に宜野湾市立博物館内に引越しました。

森川公園近くということもあり、緑に囲まれた落ち着いた場所で市史の編集事業を行っています。

これから御用の際には、博物館のほうに足をお運び下さい。今後とも、市史編集係にご協力、ご支援のほどよろしくお願いたします。

♪連絡先♪

〒901-2224

宜野湾市真志喜 1-25-1
（宜野湾市立博物館内）

TEL 098-870-9317

FAX 098-870-9316

